

どちらが ひろい

本単元で育成する資質・能力

自己決定

自尊心

協働・コミュニケーション

1 日時 令和3年12月1日(水) 5校時 13:00~14:45

2 学年 第1学年 男子3名 女子6名 計9名

3 単元について

【単元観】

本単元は、面積の比較などの活動を通して、面積とその測定についての基礎的な意味を理解し、身の回りにあるものの面積について任意単位などにより比較する力を養うとともに、面積についての感覚を豊かにし、日常生活に活用しようとする態度を養うことをねらいとしている。

【児童観】(長さ・かさの評価問題の結果を踏まえて)

本学年の児童は、長さやかさの比較で、端を揃えて比較することや、鉛筆いくつぶんなどの任意単位で比較する学習をしてきている。既習事項である物の測定への定着は、下記の表の通りである。このように、生活の中で自然と行っている直接比較はよく定着しているが、そのほかの比べ方や方法については、十分ではないことがわかる。

問題項目	解答率(全体9人)
長さやかさは端を揃えて直接比較することができるかと理解している。	9/9人
直接比較、間接比較、任意単位による比較、それぞれの方法を理解し、正しく測定できる方法を理解している。	5/9人
任意単位を用いて数値化させて比較することができる。	4/9人

・個別におけるつまずきについて

児童	★レディネスでのつまずき ⇒ ●レディネス結果から予想されるUD視点のつまずき
U.H児	★テープに長さを写し取ってくらべることができない。⇒●イメージすることの苦手さ ★めもりいくつぶんかで比較することができない。⇒●理解のゆっくりさ
Y.Y児	★任意単位として用いるものも、長さが同じでないといけないことが理解できていない。 ⇒●定着の不安定さ・理解のゆっくりさ
Y.T児	★長さを正しく比べるための条件を理解できていない。⇒●認知の偏り

【指導観】

本単元では、すきになろうタイムにゲームをするということを目標にし、比較を行わせる。「長さ」や「かさ」の学習を活かして思考したり比較したりする活動を通して、面積についての基礎的な概念や感覚を身に付けられるようにしたい。

重ねて直接比較することは容易にできるため、重ねるだけでは比較できないものと出合わせ、長さやかさで学習した「いくつぶん」で比べる考えを引き出したい。その際、いくつ分かで比べるときにやり方として「端を揃えること」「1つぶんの大きさをそろえること」という条件についての資料も活用して指導したい。

4 本時の学習と前後のつながり

	取り扱う内容・学習活動	到達して欲しい目安
どちらがながい	身の回りのものの特徴に着目し 長さをくらべる。	・長さの概念 ・長さの測定の基礎
どちらがおおい	身の回りのものの特徴に着目し 体積を比べる。	・体積の概念 ・体積の測定の基礎
「本時」 どちらがひろい	身の回りのものの特徴に着目し 面積を比べる。	・面積の概念 ・面積の測定の基礎
この後 「2年生」	長さのたんい みずのかさのたんい 長いものの長さのたんい	

4 評価規準

知・技	面積についての基礎的な意味や比較の方法、任意単位による測定の方法を理解し、面積についての基礎的な感覚を身に付け、直接比較や任意単位による測定などによって、身の回りにあるものの面積を比べることができる。
思・判・表	身の回りにあるものの面積に着目して、直接比較や任意単位による面積の比べ方を考えたり、任意単位により面積を数値で表したりしている。
態度	身の回りにあるものの面積に関心を持ち、比較の方法を工夫した過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。